

優秀賞

人に優しい壁

札幌市立北辰中学校 1年 西村 真由

壁の向こう 緑のたわわな グアバの実

私は、生まれて半年から二歳ぐらいまで南アジアに住んでいました。中学入学前の春休みに思い出の写真を見てみると、大人の顔の高さぐらいまである茶色いぶ厚い壁の上に座らせてもらった私が、現地の人達に囲まれて満面の笑みでグアバ畑を見ている写真が出てきました。

「この写真、牛の落とし物で作った壁だね」と、家族で懐かしい思い出話をしました。

南アジアの田舎の伝統的な家へ遊びに行くと、牛ふんにわらと土と水を混ぜたものを練って壁に塗った家があります。わらが発酵して壁が固く乾燥すると、無臭で殺菌作用のある蚊もハエも来ない衛生的な家になります。

そして、広い家の敷地の境目をぐるりと囲むように作られた高い壁の上で、子供達は裸足でバランス良く走り回ります。小さな子供達は、壁の上に乗せてもらって歌を歌ってもらったり楽しい昔話を聞きます。

牛の落とし物で作った壁の向こう側には、色鮮やかな緑のグアバ畑が地平線まで続きます。グアバ畑とは反対側の壁の向こうには、マンゴーの木が、どーんと一本そびえ立っていて、時計がない生活をしている村の子供達は、太陽がマンゴーの木の真上に来た時に、家のお手伝いを少し休んでマンゴーの木に集まります。私は、木登りがとても上手な現地のお兄ちゃん達が取ってきた甘い甘いマンゴーを一口頬張ります。

私にとって、牛の落とし物で作った壁は、再生エネルギーを活用したエコで人にも自然にも優しいものです。そして、人と人が集まって歌ってお話をして、大自然の畑を眺めながら楽しい時間を過ごす「憩いの場」です。

今、新型コロナウイルス感染症の影響で、人の触れ合いや集まりが減って、国を越えた交流も激減しています。人や心が離れていく壁ではなく、遠い未来が見える人にも社会にも優しい壁を考える時が来ていると思います。